

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 7月 31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2275500524
法人名	アサヒサングリーン株式会社
事業所名	アサヒサングリーン グループホーム吉田
所在地 (電話番号)	静岡県榛原郡吉田町神戸2701-2 ( 0548-33-3301 )
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成 21 年 6 月 23 日

## 【情報提供票より】(平成 21 年 6 月 5 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 6 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7 人	

### (2) 建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	木造 1階建て	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000~54,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	280 円	昼食 600 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(平成 21 年 6 月 14 日現在)

利用者人数	8 名	男性 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	1 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 85 歳	最低 78 歳	最高 90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	榛原総合病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

東名吉田インターに近くに建てられたこのホームは、同じ法人が運営する小規模多機能とデイサービスが隣接している。民家を改造したホームであり、共用空間のリビングがやや狭いものの各居室・廊下は広く、普段の家で過ごしている家庭的な匂いのするホームである。理念に「何処よりも家庭的で、帰りたい場所」を掲げ、利用者と職員が織りなす会話や歌の中に笑い声が絶えない雰囲気が漂っている。管理者は5月中旬に交代したが、新しい管理者の下で真摯にサービスに当たっていて、利用者・職員との間にも和やかなものがあった。利用者本位に地域との結びつきを重視し、更なるサービスの質の向上を図ることを運営の基盤として位置づけており、今後を期待したい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)  前回評価での主な改善課題は、職員参画の下に改善の跡が見られた。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)  評価の意義を理解し、改善に向けての取り組みが行われている。また、自己評価票も職員の意見を参考にしながら作成されている。自己評価・外部評価ともに、その結果を運営推進会議に報告しアドバイスを受ける等して運営に活かしている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)  2ヶ月に1度の割りで定期的開催されている。参加メンバーも運営推進会議の意義や役割を十分理解しており、会議では活発な意見や情報が寄せられ、これらをサービスの向上に活かしている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)  重要事項説明書に苦情窓口等について明記し、家族等へも説明がされている。意見等の収集は、家族等の来訪時あるいは、年1回開催の家族会の場となっている。意見等があったときは、毎月の会議などにおいて職員間での話し合いにより改善するとしているが、訪問回数少ない家族等に対する意見の収集策の検討が望まれる。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)  自治会・老人会に加入し、老人会の催しや各行事に利用者と共に参加し地域とのつながりを深めている。また、散歩中行きかう人達とお互い気楽に挨拶したり、自治会からの誘いには積極的に参加するように努めている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域社会との共生を図るため、住み慣れたところで、利用者がその人らしい生活ができるよう「何処よりも家庭的で、帰りたい場所」を理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に当たっての共通認識を持つため、朝礼において理念の唱和をしたり、日々あるいは会議等において具体的なサービスについての討議がされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会・老人会に加入し、老人会の催しや各行事に利用者と共に参加し地域とのつながりを深めている。また、散歩中行きかう人達とお互い気楽に挨拶したり、自治会からの誘いには積極的に参加するように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、改善に向けての取り組みが行われている。また、自己評価票も職員の意見を参考にしながら作成されている。自己評価・外部評価ともに、その結果を運営推進会議に報告しアドバイスを受ける等して運営に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の割りで定期的開催されている。参加メンバーも運営推進会議の意義や役割を十分理解しており、会議では活発な意見や情報が寄せられ、これらをサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護認定更新時に定期的に町役場に出向いたり、電話などにより相談や報告等を行なっている。また、介護相談員の訪問も毎月行われており、行政との連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月行事予定のお知らせを家族等に郵送し、また、家族等の訪問時には、個人記録兼介護報告書(検温・血圧・排尿・入浴・散歩等を記録したもの)のコピーを渡して、利用者の近況・健康状態等を報告説明している。また、日常生活の中で異変があった際には、直ちに家族等へ報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口等について明記し、家族等へも説明している。意見等の収集は、家族等の来訪時あるいは、年1回開催の家族会の場となっている。意見等があったときは、毎月の会議などにおいて職員間での話し合いにより改善するとしている。	○	訪問回数の少ない家族についても、広く意見などを求める方策として、毎月の「行事予定のお知らせ」の紙面や訪問時の面会簿等を活用して意見欄を創設するなどの取り組みが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が定着するよう職場内の和や研修等に力を注いでいる。職員が止むを得ず離職する場合は、利用者や家族に不安を与えないよう、勤務のやりくりなどして他の職員がフォローできる体制が敷かれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて、社内・社外研修を年間それぞれ3～4回実施している。参加に当たっては勤務をやりくりして参加できるよう柔軟に対処している。参加できなかった職員に対しては、月1度のカンファレンスを利用して研修内容を周知し共有化を図っているほか、職員からの意見・提案制度も取り入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を図りサービスの質の向上に努めたいとしているが、近隣に同業者もいないことから、研修会等で知り合った同業者との間で相談ごとや意見交換を電話で行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム内の見学を始め、一週間のお試し期間を設ける中で、本人の不安や求めていることなどを傾聴したり、本人及び家族等に相談しながら徐々に馴染める環境作りを行なっている。	○	入居希望者がグループホームに移り住んで暮らすことは本人にとってふさわしい選択なのかの判断基準として、家族等の話や書類のみでの入居判断するのではなく、入居者本人及び家族等の状態や背景を十分把握する上からも、家庭を訪問することが望まれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	どんな行事でも利用者全員に声掛けをしている。また、日々の生活の場においても、利用者全員が何かしら参加できるものを工夫するなど、介護する側・される側といった垣根を取り外し、利用者職員が共に支えあう関係づくりの支援が行われている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや、暮らし方の希望、意向の把握には日常生活や、関わりの中などで職員は助け合える関係作りを心掛けており、無理強いせず、ゆっくりと過ごしてもらえよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がその人らしく暮らせるよう、月に一度のケアカンファレンスの場で管理者、職員同士で意見交換を進めている。介護計画には会議で話し合われた新しい情報を取り入れ、ケアマネジャーを交えて家族関係者と話し合い、利用者本位となる様介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しについては3ヶ月に一度モニタリングを行い、利用者ごとに状況変化やケアの課題などが話し合われ介護計画の見直しを行っている。また、本人、家族やホームの提携医、管理者、職員等と情報交換や話し合いを行い、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況にあわせて通院や外出の支援等、柔軟な対応をしている。小規模多機能を併設しているので互いの交流機会を増やし、ホームの持つ独自の機能を十分に活かしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の提携医の他、以前からのかかりつけ医での医療を受けられるような支援をしている。提携医の訪問診療など利用者に体調の変化が起きた場合は、各医療機関に迅速に対応できるよう協力システムが出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについての取り組みの重要性は認識しているものの、ケースがなかったことから場合に備えた方針は現在検討中である。	○	重度化した場合や終末期のあり方について、ホームとしての基本指針の確立やマニュアルの作成など、全職員で終末期対応を共有する仕組み作りが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者や職員は利用者一人ひとりの誇りや尊厳を一番に考え、プライバシーを損ねるような言葉掛けをしないよう心掛けている。また、個人情報の取扱いについても個人記録は各ファイルに収められる様に保管されており、管理者、職員も個人情報保護法の理解に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	のどかな田園風景が広がる中で利用者がのんびりと暮らせ、ゆっくりと時間が経過するような雰囲気作りを心掛けている。やさしさと穏やかさが交差しており、職員は様々な工夫をすることで、その人らしい暮らしの確保に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前に職員が口腔体操を取り入れ、楽しみながら食事が出来るよう支援している。その影響もあり、利用者一人ひとりの食事量が増えたという結果が出ている。また、後片付けや食事を通じたコミュニケーションも、楽しみながら職員全員で支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は出来るだけ利用者の希望に合わせ、ゆったりとした気分で入浴できるよう2日に1回を基本に実施している。入浴を楽しめる雰囲気を常に心掛け、利用者や職員とのコミュニケーションの場ともなっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	管理者や職員は、利用者本人の生活歴や心身の状態に合わせて、生活リハビリを基本に季節行事やアクティビティなど様々な支援をしている。職員の異動が少ない為、利用者も安心感があり自分の役割など楽しみながら生活している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺には水田や野菜畑など、のどかな田園地帯が広がっている。近隣にはグランドゴルフが出来る広場があり、少しづつではあるが、交流できるよう努力している。また、季節感が感じられるよう一人ひとりの状態や希望に合わせて、3～4人態勢で外出支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵をかけない暮らしの大切さを管理者や職員全員が認識しており、見守り方法や安全面に配慮しながら支援している。玄関には開閉時に鈴やベルが鳴るよう工夫されており、さり気ない見守りができるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作成し、防災訓練は年1回小規模多機能サービスと共同で行っているが、昼夜を通じた災害時の具体的な避難策など確立されていない。また、地元消防署や地域住民との協力体制が十分とは言えない。	○	夜間の防災対策及び消防署あるいは近隣地域の協力が得られるよう検討が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調面など考慮しながら、食事の量を調整し栄養バランスについても細かな注意が払われている。利用者個々の毎日の水分摂取量は職員が記録表に記載しており、注意が必要な利用者には主治医の意見を参考にして水分補給を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングなどの共用空間はやや狭いが、それなりの工夫をして利用者同士が楽しく過ごせる工夫がされている。また、廊下やトイレなど各所には程よい高さの手すりが設置され、危険なく移動できるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が毎日を穏やかに安心して生活できるよう、家族の協力を得て使い馴れた家具や日用品などが持ち込まれていたり、花や絵画、写真や趣味の物を飾るなどして、その人らしい生活感のある居室を作り出している。		